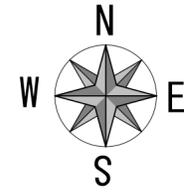


豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事（第二期）

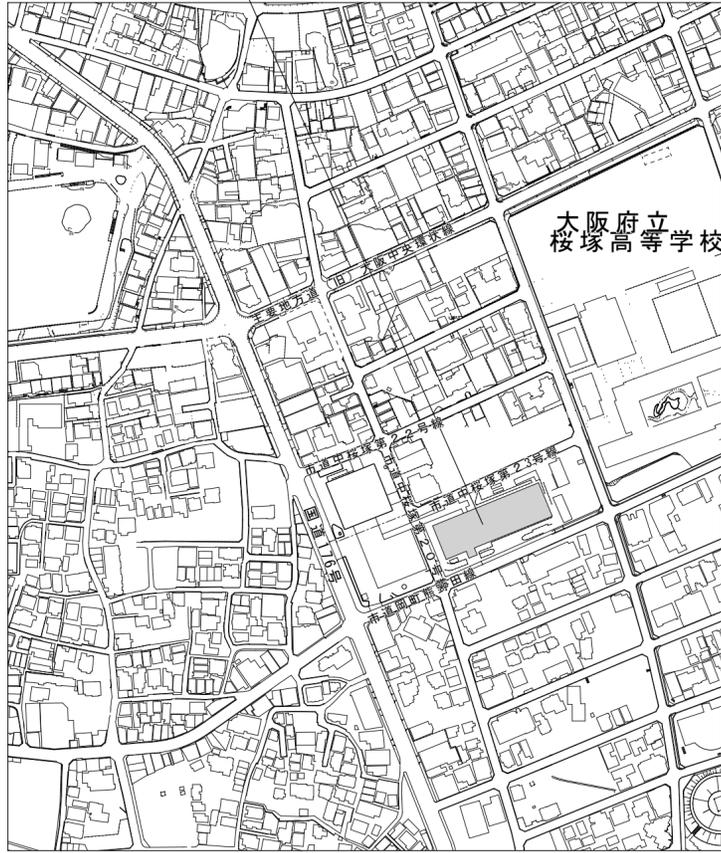
図面リスト

| 図面番号 | 図面名称 | 縮尺 | 図面番号 | 図面名称 | 縮尺 |
|------|-----------------------|------------|------|------------------------------|------------|
| A-01 | 表紙・図面リスト | - | A-31 | 既設 3F バリアフリートイレ平面詳細図・展開図 | 1/30、1/50 |
| A-02 | 配置図 附近見取図 | - | A-32 | 既設 5F 西側トイレ 平面詳細図等 | 1/30 |
| A-03 | 改修特記仕様書（1） | - | A-33 | | |
| A-04 | 改修特記仕様書（2） | - | A-34 | 既設 5F 西側トイレ展開図 | 1/50 |
| A-05 | 改修特記仕様書（3） | - | A-35 | 既設 5F 西側トイレ展開図、天井伏図 | 1/50、1/100 |
| A-06 | 改修特記仕様書（4） | - | A-36 | 改修 5F 西側トイレ 平面詳細図等 | 1/30 |
| A-07 | 改修特記仕様書（5） | - | A-37 | | |
| A-08 | 石綿特記仕様書（レベル3） | - | A-38 | 改修 5F 西側トイレ 展開図 | 1/50 |
| A-09 | 改修特記仕様書（追記事項1） | - | A-39 | 改修 5F 西側トイレ展開図、天井伏図 | 1/50、1/100 |
| A-10 | 改修特記仕様書（追記事項2） | - | A-40 | 既設 建具表 | 1/100 |
| A-11 | 工事区分表 | - | A-41 | 改修 建具表 | 1/100 |
| A-12 | 仕上表 | - | A-42 | 改修 部分詳細図（1） | 1/10、1/20 |
| A-13 | 既設 BF 平面図 | 1/300 | A-43 | 改修 部分詳細図（2） | 1/20 |
| A-14 | 既設 1・2F 平面図 | 1/300 | A-44 | 外部仮設図（参考図） | 1/500 |
| A-15 | 既設 3・4F 平面図 | 1/300 | A-45 | | |
| A-16 | 既設 5・6F 平面図 | 1/300 | A-46 | | |
| A-17 | 既設 BF トイレ 平面図詳細図 | 1/30 | A-47 | 西側施工時 内部仮設計画図（1）BF平面図（参考図） | 1/200 |
| A-18 | 既設 BF トイレ 天井伏図 展開図 | 1/50、1/100 | A-48 | 西側施工時 内部仮設計画図（2）4～5F平面図（参考図） | 1/200 |
| A-19 | 改修 BF トイレ 平面詳細図 | 1/30 | A-49 | 西側施工時 内部仮設計画図（3）BF平面図（参考図） | 1/200 |
| A-20 | 改修 BF トイレ 天井伏図 展開図 | 1/50、1/100 | A-50 | 西側施工時 内部仮設計画図（4）1～4F平面図（参考図） | 1/200 |
| A-21 | 既設 1～4F 西側トイレ 平面詳細図等 | 1/30 | | | |
| A-22 | | | | | |
| A-23 | | | | | |
| A-24 | 既設 1～4F 西側トイレ展開図 | 1/50 | | | |
| A-25 | 既設 1～4F 西側トイレ展開図、天井伏図 | 1/50、1/100 | | | |
| A-26 | 改修 1～4F 西側トイレ 平面詳細図 | 1/30 | | | |
| A-27 | | | | | |
| A-28 | | | | | |
| A-29 | 改修 1～4F 西側トイレ展開図 | 1/50 | | | |
| A-30 | 改修 1～4F 西側トイレ展開図、天井伏図 | 1/50、1/100 | | | |

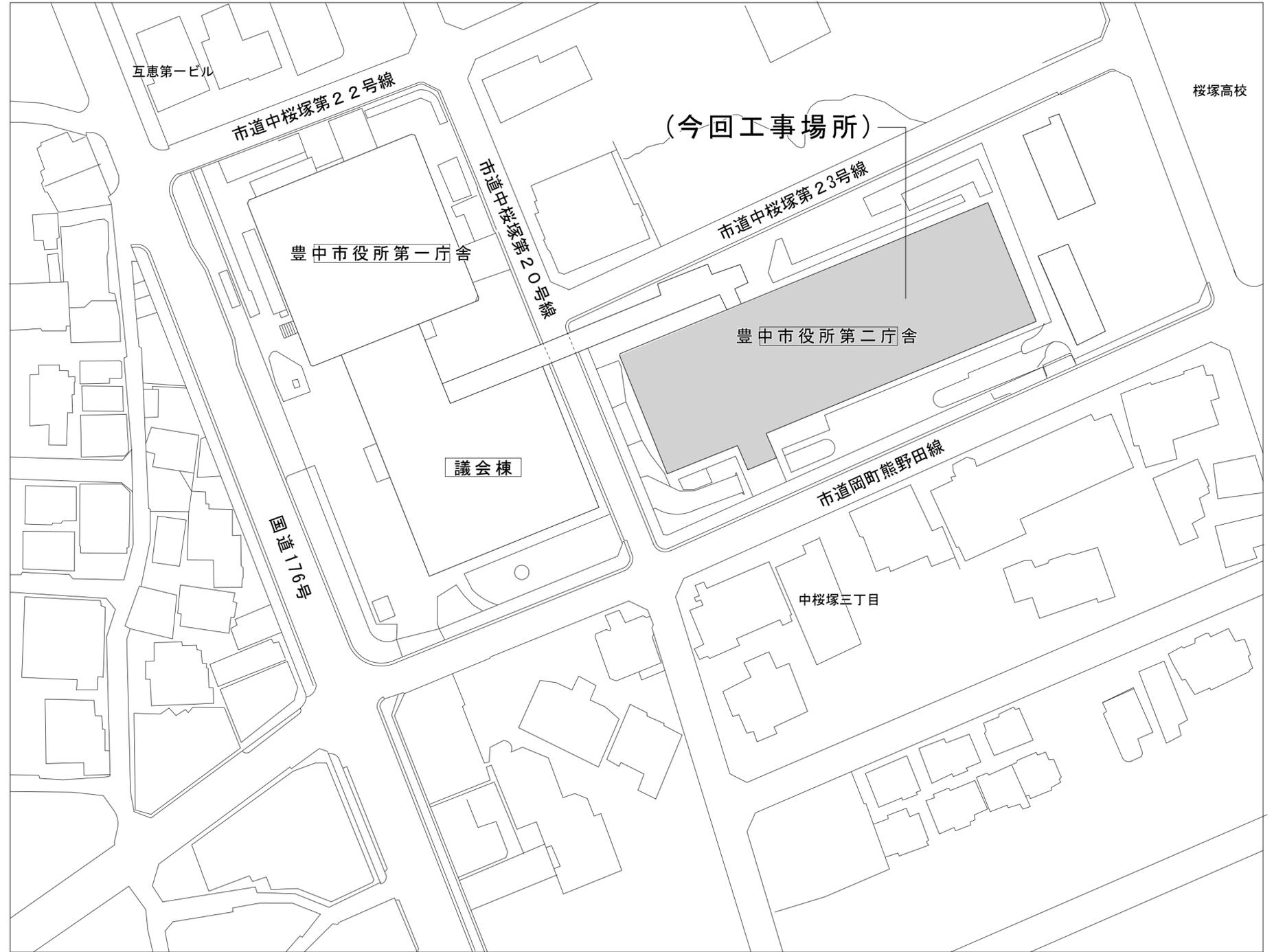
| | | | | | |
|------------------|--|--------|-------------------------|------------------------------|-----------|
| 特 記 事 項 | | 検 印 | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事（第二期） | 令和6年（2024年）6月 | 建 |
| | | | 表紙・図面リスト | | |
| | | | 豊中市財務部施設課 | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | No. 01 |



工事場所：豊中市役所第二庁舎
豊中市中桜塚3丁目1番1号



付近見取図 1/3500



配置図 1/700

| | | | | | |
|------------------|--|-----|--------------------------|------------------------------|--------------------|
| 特 記 事 項 | | 検 印 | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事 (第二期) | 令和6年(2024年)6月 | 建 No. 02 |
| | | | 配置図・付近見取り図 | S=1/700 | |
| | | | 豊中市財務部施設課 | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | |

豊中市役所第二庁舎
トイレ内装改修工事（第二期）

仕様書

I 工事概要

1. 工事場所 豊中市中桜塚3丁目1番1号

2. 敷地面積 4923.6㎡

3. 工事種目 第二庁舎棟 トイレ（B1～5階 男子トイレ・女子トイレ・多機能トイレ・給湯室・エリア間通路）
全面改修の建築工事を行うもの。

| 改修面積 | SRC造 | B1階 | 54.0㎡ |
|------|------|-----|-------|
| 1階 | | | 45.5㎡ |
| 2階 | | | 45.5㎡ |
| 3階 | | | 45.5㎡ |
| 4階 | | | 45.5㎡ |
| 5階 | | | 45.5㎡ |

4. 工事内容

| | | |
|---|------|--------------------------------------|
| ① | 地下1階 | 男子トイレ・女子トイレを乾式トイレに改修、組合事務所・シャワー室天井改修 |
| ② | 1階 | 男子トイレ・女子トイレ・多機能トイレ・給湯室・通路等を乾式トイレ等に改修 |
| ③ | 2階 | 男子トイレ・女子トイレ・多機能トイレ・給湯室・通路等を乾式トイレ等に改修 |
| ④ | 3階 | 男子トイレ・女子トイレ・多機能トイレ・給湯室・通路等を乾式トイレ等に改修 |
| ⑤ | 4階 | 男子トイレ・女子トイレ・多機能トイレ・給湯室・通路等を乾式トイレ等に改修 |
| ⑥ | 5階 | 男子トイレ・女子トイレ・多機能トイレ・給湯室・通路等を乾式トイレ等に改修 |

5. 工事範囲

※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。

・「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。ただし、その他の工事種目はすべて今回工事範囲とする。

| 工事項目 | トイレ [改修] | | | | |
|----------------------------|-------------|--|--|--|--|
| 2 仮設工事 | ○ | | | | |
| 3 防水改修工事 | — | | | | |
| 4 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁 | — | | | | |
| 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁 | — | | | | |
| 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁 | — | | | | |
| 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁 | — | | | | |
| 5 建具改修工事 | ○ | | | | |
| 6 内装改修工事 | ○ | | | | |
| 7 塗装改修工事 | ○ | | | | |
| 9 環境配慮改修工事 | ○ | | | | |
| 10 撤去工事 | ○ | | | | |
| 11 雑工事 | ○ | | | | |

II 建築改修工事仕様

1. 共通仕様

図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」（以下「改修標準」という。）により、また、改修標準に記載されていない事項は、同部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成31年版）」（以下「標準」という。）及び同部監修「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成31年版）」、同部監修「建築物解体工事共通仕様書（平成31年版）・同解説」による。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、ともに適用する。
(3) 特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、改修標準の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標準の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(5) 特記事項に記載の（別2- ）は、標準の「別図2 ホルト間隔等及び溶接継手の開先形状」の該当項目を示す。
(6) □印は「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」の特定調達品目を示す。

| 章 | 項目 | 特記事項 |
|---------------------|---|--|
| 1 一般 共通 事項 | ① 適用基準等 | <ul style="list-style-type: none"> ●建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修 平成31年版） ●営繕工事写真撮影要領（平成24年版）・同解説 工事写真の撮り方建築編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修） ●建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 平成31年版） ●建築改修工事監理指針（平成28年版） |
| | ② 工事実績情報の登録 | ●適用する [1.1.4] |
| | ③ 品質計画等 | <ul style="list-style-type: none"> ・建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による。 [1.2.2] ※風速 $V_0 = (30) \text{ m/s}$ (平12建告第1454号第2) ※地表面粗度区分 ・Ⅰ ・Ⅱ ・Ⅲ ・Ⅳ ・積雪区分 平12建告第1455号 別表（ ） |
| | ④ 電気保安技術者 | <p>工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。</p> <p>○要 ・不要 [1.3.3]</p> |
| | ⑤ 施工条件 | <p>下記以外は現場説明書による。 [1.3.5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工事用車両の駐車場所 ・外部駐車場（有償）3台 ○資機材置場 ※図示 ・ ○建設発生材仮置場 ※図示 ・ |
| | ⑥ 発生材の処理等 | <ul style="list-style-type: none"> ・発注者に引渡しを要するもの （ ・金風類 ・ ） [1.3.8] ・特別管理産業廃棄物 （ ・廃石綿 ・PCB含有物 ・ ） [1.3.8] ・現場において再利用を図るもの （ ） [1.3.8] ○再資源化を図るもの （コンクリート・アスファルト ） [1.3.8] <p>・PCB含有シーリング材の処理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次判定：現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。 採取箇所数 計（ ）箇所 採取箇所 ※図示 ・ ・第二次判定：専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。 分析個数 計（ ）箇所 ・除去処理工事 除去範囲 ※図示 ・ |
| ⑦ 環境への配慮 | <p>化学物質を放散させる建築材料等 [1.4.1]</p> <p>本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、次の（1）から（5）を満たすものとする。</p> <p>(1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集材材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。</p> <p>(2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。</p> <p>(3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑性剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。</p> <p>(4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。</p> | |

⑧ 材料の品質等

⑨ 特別な材料の工法

⑩ 施工数量調査

1.2 技能士

(5) (1)、(3)及び(4)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。

また、設計図書に定める「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。

| ホルムアルデヒド放散量 | 該当する材料 |
|-------------|--|
| 規制対象外 | <ul style="list-style-type: none"> ① JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 <ul style="list-style-type: none"> a. 接着剤等不使用 b. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 f. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 |
| 第三種 | <ul style="list-style-type: none"> ① JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 |

[1.4.2]

本工事に使用する材料は、設計図書に定める所要の品質及び性能を有するものとし、JIS又はJASのマーク表示のない材料及びその製造者等は、次の（1）～（6）の事項を満たすものとする。

(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること
(2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
(3) 安定的な供給が可能であること
(4) 法令等で定める許可、認可、認定、免許等を取得していること
(5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
(6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること

なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会等）が発行する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」の評価書等の写しを、監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。

また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

改修標準及び標準に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

調査範囲及び調査方法 ※図示 [1.5.2]
既存部分の破壊を行った場合の補修方法 ※図示 ・ [1.5.3]

[1.6.2]

| 適用工事種別 | 技能検定作業 |
|---------------------|---|
| 防水改修工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業 ・左官作業 ・内外装板金作業 |
| 外壁改修工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・左官作業 ・タイル張り作業 ・建築塗装作業 |
| 建具改修工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・ビル用サッシ工事作業 ・ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業 |
| 内装改修工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・壁装作業 ・大工工事作業 ・鋼製下地工事作業 ・左官作業 ・タイル張り作業 |
| 塗装改修工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・建築塗装作業 |
| 耐震改修工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋組立作業 ・型枠工事作業 ・コンクリート圧送工事作業 ・構造物鉄工作業 ・とび作業 |
| コンクリートブロック・ALCパネル工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートブロック工事作業 ・エーエルシーパネル工事作業 |
| 石工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・石張り作業 |
| 補装工事 | <ul style="list-style-type: none"> ・造園工事作業 |

| | | | | |
|------|----|-------------------------|------------------------------|---|
| 特記事項 | 検印 | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事（第二期） | 令和6年（2024年）6月 | 建 |
| | | 特記仕様書（1） | | |
| | | 豊中市財務部施設課 | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | |

| | | | | | | | |
|----|-----------|--|---|---|------------|---|---|
| 13 | 化学物質の濃度測定 | <p>○特記仕様書（追記事項1）による。（A-08） [1.6.9]</p> <p>施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、ステレンの濃度を測定し、報告する。 測定はアクティブ型採取機器により行う。 着工前後の測定 ○ 行う 測定対象室 ・ 事務室、シャワー室、男女便所、多機能トイレ 測定場所は、市係員と打合せによる。 測定箇所数 ・ 着工前 27箇所 ・ 1箇所（試験体は1箇所につき2個） ・ 竣工後 27箇所</p> <p>報告の様式等については、現場説明書による。</p> | 5 鋼製建具 | 簡易気密型ドアセットの適用は建具表による [5.3.2] [表5.3.1] 外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による [5.3.2] [表5.2.1] | 9 軽量鉄骨天井下地 | 野縁等の種類 [6.6.2] [表6.6.1] 屋外（・19形 ※25形） 屋内（※19形 ・25形） 既存の埋込みインサート ・使用する ○使用しない [6.6.4] あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う ○行わない [6.6.4] 屋外の軒天井、ピロティ天井等 [6.6.3.4] 野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離 ※図示 ・ 野縁の間隔 ※図示 ・ 耐風圧性を考慮した補強 ※図示 ・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強 [6.6.4] ・行う（補強箇所 ※図示 補強方法 ※図示） | |
| | 14 | 完成時の提出図書 | <p>○完成図 [1.8.1~3] [表1.8.1]</p> <p>・既存図面修正 ※作成する 提出部数 ※各2部 ○ 1部（A1版第二原図、及び電子媒体CD-R（CAD及びPDF形式）） ※各2部 ○ 2部（焼図製本（A1・A3、及び電子媒体CD-R（CAD及びPDF形式））） 種類 ※改修仕様表1.8.1による。ただし、種類は当該工事で該当する図面、表及び計画書とする。 ※施工計画書 提出部数 ※1部 ・ 部 ※施工図 提出部数 ※1部 ・ 部 ○保全に関する資料 提出部数 ※2部 ・ 部</p> | 6 鋼製軽量建具 | | 簡易気密型ドアセットの適用は建具表による [5.4.2] 鋼板類の厚さ ・ 建具表による | 10 |
| 15 | 設備工事との取合い | 設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。 | 7 ステンレス製建具 | 簡易気密型ドアセットの適用は建具表による [5.3.2] [表5.3.1] 外部に面する建具の耐風圧性の適用は建具表による [5.3.2] [表5.2.1] 表面仕上げ ※HL ・鏡面 [5.5.4] 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ（補強あり） [5.5.5] | 11 | ビニル床シート、 ビニル床タイル及び ゴム床タイル張り | ビニル床シート及びビニル床タイルの特殊機能 [6.8.2] 帯電防止 ・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上~3.2未満 又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10 ⁷ ~1×10 ¹⁰ Ω程度 ¹⁰ |
| 16 | 設計GL | ※図示 ・ | 8 木製建具 | かまち戸の樹種 かまち（ ） 鏡板（ ） [16.6.2] ふすまの上張り (表16.6.3) ※新鳥の子又はビニル紙程度（押入等の表面は除く） ・鳥の子 建物内部の木製建具に使用する表面材（合板）及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 | | | 耐動荷重 JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り試験、摩耗性試験、 層間はく離強度試験（発泡層のあるビニル床シートのみ）及びキャストー性試験等の試験後、異常がないこと |

| | | |
|-----------|--------------------------------|---|
| 2 仮設工事 | 1 足場その他 | 足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）により、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」によるものとする。 [2.2.1] 内部足場 種別 ※きゃたつ、足場板等 ・ 外部足場 種別 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種 [2.2.1] [表2.2.1] 防護シート ※設置する ・設置しない 材料、撤去材等の運搬方法 ・A種 ※B種 ・C種 ○D種 ・E種 [2.2.1] [表2.2.2] |
| | 2 既存部分の養生 | 既存部分の養生 ※ビニルシート等 ○ プラベニヤt=3 [2.3.1] 既存家具等の養生 ※ビニルシート等 ・ 固定家具等の移動 ※行わない ・行う（図示） |
| | 3 仮設間仕切り | 仮設間仕切り等の種別 [2.3.2] [表2.3.1] 種 別 下 地 仕上材（厚さ mm） 充填材 塗 装 ○A種 ※軽量鉄骨 ・合板（※9.0 ・ ） 厚さ 50 mm ※なし ・B種 ・木下地 ※せっこうボード（※9.5 ○12.5+12.5両面貼 ） ・片面 ※C種 単管下地 防火シート 仮設扉 ※木製扉 ※合板張り程度 ・ ※なし ・鋼製引違戸 ※片面フラッシュ程度 ○ アルミ製 ・あり |
| | 4 監督職員事務所 | ※設ける [2.4.1] ○構内に新設する（規模及び仕上げの程度は現場説明書による） ・既存建物内の一部を使用する ・設けない |
| 5 工事用水 | 構内既存の施設 ・利用できない ※利用できる ※有償 ・無償 | |
| 6 工事用電力 | 構内既存の施設 ・利用できない ※利用できる ※有償 ・無償 | |

| | | |
|-------------|----------|--|
| 3 防水改修工事 | 8 シーリング | シーリング改修工法の種類 [3.1.4] [表3.1.2] ○シーリング充填工法 ・シーリング再充填工法 ・拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 シーリング材の種類 ※下表以外は、改修仕様表3.7.1による [3.7.2] [表3.7.1] 施工箇所 シーリング材の種類（記号） 建具廻り MS-2 内部取り合い（人工大理石等） MS-2 水回り（洗面・汚垂石等） SR-1 ブリッジ工法 ボンドプレーカー張り ・適用する [3.7.7] エッジング材張り ・適用する 接着性試験 ※簡易接着性試験 ・引張接着性試験（部位： ） [3.7.8] |
| | 4 木材 [G] | 表面仕上げの程度 ・A種 ※B種 ・C種 [6.5.1] [表6.5.1] 現場搬入時の木材の含水率 ※A種 ・B種 [6.5.2] [表6.5.2] 保存処理木材 ・使用する（使用箇所： ） [6.5.2] 構造材及び下地材の品質の基準 ※改修仕様6.5.2(a)(2)(iv)による ・ [6.5.2] 造作材の材面の品質の基準 ※A種 ・B種 [6.5.2] [表6.5.3] 代用樹脂を使用しない箇所（ ） [6.5.2] [表6.5.4] 造作材 敷居 ・松 ・杉 ○ 桧 ・米桐 建具吊元 ・杉 ・松 ○ 桧 ・上小節 その他見え掛り ・杉 ・松 ・桧 ○ 米桐 ・上小節 |

| | | |
|-------------|---------------------|--|
| 5 建具改修工事 | 1 改修工法 | [5.1.3] 建具の種類 改 修 撤去工法 適用箇所 ・アルミニウム製建具 ※建具表による ・図示 ○鋼製建具 ・外部 ○ 内部 ※建具表による ・図示 ○鋼製軽量建具 ○ ※建具表による ・図示 ・ステンレス製建具 ○ ※建具表による ・図示 |
| | 6 接着剤 (内装改修工事全般) | [6.5.2] [6.8.2] [6.9.3] [6.11.5.6] [6.13.2] [6.14.2] [6.16.3] 壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂（以下「ユリア樹脂等」という）又はホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 |

| | | |
|---------------------|---|--|
| 6 内装改修工事 | 9 建具用金物 | 鍵 [5.6.4] マスターキー ※製作する ○製作しない ・既設マスター合わせ 鍵箱 [5.6.4] 市販品 形式 ・30組用 ・60組用 ・120組用 ・ |
| | 10 自動ドア開閉装置 | [5.7.2.3] [表5.7.1~3] ドアの種類 センサーの種類 ※スライディングドア 種類 ・SSLD-1 ・SSLD-2 ○SD ・DSL-1 ・DSL-2 ・スイングドア 種類 ・SMD-1 ・SMD-2 ・凍結防止措置（適用箇所は建具表による） [5.7.3] センサーの種類 ・マットスイッチ ※光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ○多機能便所スイッチ |
| 1 改修範囲 | 既存間仕切り壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 [6.1.3] ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○図示の範囲 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 [6.1.3] ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修 [6.1.3] ※既存のまま ・図示の範囲 | |
| 2 既存床の撤去並びに 下地補修 | ビニル床シート等の撤去 ※仕上材のみ（接着剤共） [6.2.2] ・下地モルタル共（※図示の範囲 ・除く範囲すべて） 合成樹脂塗床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒し工法 [6.2.2] 改修後の床の清掃範囲 ※改修箇所の室内 [6.2.2] | |
| 3 既存壁の撤去並びに 下地補修 | 間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修 [6.3.2] [4.4.9] ※モルタル塗り（塗厚25mmを超える場合の補強 ※行う ・行わない） ・図示 | |
| 8 接着剤 (内装改修工事全般) | [6.5.2] [6.8.2] [6.9.3] [6.11.5.6] [6.13.2] [6.14.2] [6.16.3] 壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂（以下「ユリア樹脂等」という）又はホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 | |

| | | |
|--------------------------------------|--|---|
| 検 印 | 9 軽量鉄骨天井下地 | 野縁等の種類 [6.6.2] [表6.6.1] 屋外（・19形 ※25形） 屋内（※19形 ・25形） 既存の埋込みインサート ・使用する ○使用しない [6.6.4] あと施工アンカーの引抜き試験 ・行う ○行わない [6.6.4] 屋外の軒天井、ピロティ天井等 [6.6.3.4] 野縁受、吊りボルト、インサートの間隔及び周辺部からの距離 ※図示 ・ 野縁の間隔 ※図示 ・ 耐風圧性を考慮した補強 ※図示 ・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強 [6.6.4] ・行う（補強箇所 ※図示 補強方法 ※図示） |
| | 10 軽量鉄骨壁下地 | スタッド、ランナーの種類 ※改修仕様表6.7.1による ・図示 [6.7.3] [表6.7.1] スタッドの高さが5mを超える場合 ※ 図示 [表6.7.1] |
| 11 ビニル床シート、 ビニル床タイル及び ゴム床タイル張り | ビニル床シート及びビニル床タイルの特殊機能 [6.8.2] 帯電防止 ・帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上~3.2未満 又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1×10 ⁷ ~1×10 ¹⁰ Ω程度 ¹⁰ 耐動荷重 JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り試験、摩耗性試験、 層間はく離強度試験（発泡層のあるビニル床シートのみ）及びキャストー性試験等の試験後、異常がないこと ビニル床シート [G] [6.8.2] 種 類 記号 施工箇所 色 柄 厚さ (mm) 特殊機能 ※発泡層のないもの ※NC トイレ（防汚性） 廊下 ※無地 ※2.5 ・マーブル柄 ※3.0 ・帯電防止 ・耐動荷重 ・発泡層のあるもの ※柄物 ・無地 ・帯電防止 ・耐動荷重 工法 ※熱溶接工法 ・突付け（施工箇所： ） [6.8.3] ビニル床タイル [G] [6.8.2] 種 類 記号 施工箇所 色柄 寸法 (mm) 厚さ (mm) 特殊機能 ・コンポ ジション CT ※無地 ・300×300 ※2.0 ・帯電防止 ・ビニル床タイル（半硬質） ・柄物 ・450×450 ・耐動荷重 ・コンポ ジション CTS ※無地 ・300×300 ※2.0 ・帯電防止 ・ビニル床タイル（軟質） ・450×450 ・耐動荷重 ・ホモジニアスビニル床タイル HT ※無地 ・300×300 ※2.0 ・帯電防止 ・450×450 ・耐動荷重 ・置敷きビニル床タイル HTL ※無地 ・500×500 ・帯電防止 ・耐動荷重 ビニル幅木 [6.8.2] 材質 ※軟質 ・硬質 高さ (mm) ※60 ・75 ・100 厚さ (mm) ※2.0 ・ ゴム床タイル [6.8.2] 色柄（ ） 厚さ (mm) ○3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0 寸法（ 500×500 ） | |

| | | | | |
|------------------|-----|-------------------------|------------------------------|----|
| 特 記 事 項 | 検 印 | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事（第二期） | 令和6年（2024年）6月 | 建 |
| | | 特記仕様書（2） | S=1/ | |
| | | 豊中市財務部施設課 | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | 04 |

| | | | |
|----------------------------|-----------------------------|-------------------------------------|-------------|
| 6 内装改修工事 | 17 せっこうボード及び その他ボード張り | [6.13.2] [表6.13.1] | |
| | | 種類 | JISの記号 |
| ○せっこうボード | | ◎9.5 (準不燃) ◎12.5 (不燃) | 厚さ (mm)、規格等 |
| ○シーリングせっこうボード | | ◎12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃) | |
| ・耐火せっこうボード | | ◎12.5 (不燃) ・15.0 (不燃) | |
| ・せっこうラスボード | | ◎9.5 | |
| ・化粧せっこうボード | | ◎9.5 (不燃) 910×455程度 | |
| ・硬質せっこうボード | | ◎12.5 (不燃) | |
| ・不燃積層せっこうボード | | ◎9.5 (不燃) ・化粧なし (下地張り用) | |
| ○けい酸カルシウム板 | | タイプ2 (無石棉) | |
| ○ロックウール化粧吸音板 | | ※フラットタイプ (※9 (不燃)◎12 ()) | |
| ・ロックウール吸音ボード1号 | | ◎25 | |
| ・グラスウール吸音ボード2号32K | | ◎25 (ガラスクロス包) | |
| ・硬質木毛セメント板 | | ◎15 ・20 ・25 | |
| ・普通木毛セメント板 | | ◎15 ・20 ・25 | |
| ・硬質木片セメント板 | | ◎12 ・15 ・18 ・21 | |
| ・普通木片セメント板 | | ◎30 | |
| ・単板張りパーテイクルボード | | ◎無研磨板 (VN) ・研磨板 (VS) | |
| ・化粧パーテイクルボード | | ◎単板オーバーレイ (DV) | |
| ・メディアムデンシティ ファイバーボード | | ◎素地MDF (RS) | |
| ・ハードボード (素地) | | ◎未研磨板 (RN) ・研磨板 (RS) | |
| ・ハードボード (化粧) | | ◎内装用化粧 (DI) ・外装用化粧 (DE) | |
| ・インシュレーションボード | | ◎A級二次加工品 | |
| ○メラミン樹脂化粧板 | | ◎JIS K 6903による 厚さ3.0 | |
| パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放散量 | | [6.13.2] | |
| ※規制対象外 ・第三種 | | | |
| 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 | | [6.13.2] | |
| ※適用する ・適用しない | | | |
| 合板類の張付け | | ◎A種 ◎B種 [6.13.3] [表6.13.3] | |
| 壁紙の種類 | | [6.14.2] | |
| 施工箇所 | 紙 | 繊維 (織物) | 防火性能 |
| 図示による | ○ | ○ | ◎不燃・準不燃・難燃 |
| 壁紙のホルムアルデヒド放散量 | | ◎規制対象外 ・第三種 [6.14.2] | |
| 下地調整 | | [6.14.3] [表7.2.4] [表7.2.5] [表7.2.7] | |
| モルタル面、プaster面 | ◎RA種 ◎RB種 | (施工箇所:) | |
| コンクリート面 | ◎RA種 ◎RB種 | (施工箇所:) | |
| せっこうボード面 | ◎RA種 ◎RB種 | (施工箇所:) | |
| セルフレベリング材 塗り | | ◎仕上表による ・図示 [6.17.2] [表6.17.1] | |
| ○トイレブース | | ◎表面仕上げ材 (20.2.5) | |
| 表面仕上げ材 | 脚部 | ドアエッジ | |
| ◎メラミン樹脂系化粧板 | ◎幅木 | ◎アルミニウム製 | ◎標準 |
| ・ポリエステル樹脂系化粧板 | ◎支柱 | ◎ステンレス製 | ◎R |

| | | |
|-----------------------------------|---|--|
| 30 表示 | 表示 | |
| | 区分 | 材質 |
| ・衝突防止表示 (両面・片面) | | ◎ステンレス製 ・図示 |
| ○室名札 | | ◎図示 |
| ○ピクトグラフ | | ◎図示 |
| ・扉番号 | | ◎図示 |
| ・階数表示 | | ◎図示 |
| ・建物案内板 | | ◎図示 |
| ・各階案内板 | | ◎図示 |
| 案内用記号はJIS Z 8210による。 | | |
| 誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とする。 | | |
| 4.1 流し台ユニット | 種類 | 寸法 (L=mm) |
| ・流し台 | | ◎1200 ・1500 ・1800 |
| ・コンロ台 | | ◎600 ・700 |
| ・吊戸棚 | | ◎1200 ・900 ・600 |
| ・水切棚 | | ◎1200 ・900 |
| 適用内容 | | ◎トラップ付き |
| ◎バックガード ※あり | | |
| ◎ステンレス製 ※1段式 | | |
| 規格・品質等 | | ◎優良住宅部品 (セクショナルキッチン) |
| ◎市販品 | | |
| 4.2 洗面カウンター | 材種 | ◎メラミン樹脂化粧板張り (心材: 集成材) ・人工大理石 ◎マーブルカウンター |
| 奥行き (mm) | | ◎約450 ・約600 |
| 4.3 収納家具 | 材質 | ◎ |
| 形状・寸法 | | ◎図示 |
| 合板、集成材、MDF、パーテイクルボード等のホルムアルデヒド放散量 | | ◎規制対象外 ・第三種 |
| 4.7 調理台 | 施工箇所 | ◎湯沸室 |
| ◎ステンレス製 図示 | | |
| 1 材料 | 建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 [7.1.3] | |
| ◎規制対象外 ・第三種 | | |
| 建物内部に使用する塗料の材質 ・水性系 | | |
| 防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。 [7.1.3] | | |
| ◎次の箇所を除き防火材料とする。(施工箇所:) | | |
| 2 下地調整 | 既存塗膜の除去範囲 (塗替えてRB種の場合) [7.2.1] [表7.2.1~7] | |
| ◎塗替え面積の30% ・図示 | | |
| 下地調整の種類等 [7.2.2~7] [表7.2.1~7] | | |
| 下地面の種類 | | 下地調整の種類 |
| ◎木部 | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎鉄鋼面 | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎垂鉛めっき鋼面 (鋼製建具を除く) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎垂鉛めっき鋼面 (鋼製建具) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎モルタル面、プaster面 | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎コンクリート面、ALCパネル面 (DPは除く) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎コンクリート面、押出成形セメント板面 (DPの場合) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎せっこうボード面、その他ボード面 | | ◎塗替え ◎新規 |
| 錆止め塗料塗りの種別等 [7.3.2.3] [表7.3.1~4] | | |
| 塗装面 | | 塗料種別 |
| 鉄鋼面 | | ◎A種 ◎C種 ◎A種 |
| 屋外 | | ◎A種 ◎B種 ◎C種 ◎A種 |
| 屋内 | | ◎B種 ◎C種 ◎A種 |
| 垂鉛めっき鋼面 | | ◎塗替え ◎C種 ◎A種 |
| ◎塗替え | | ◎A種 ◎B種 ◎C種 |
| ◎新規 (鋼製建具を除く) | | ◎A種 ◎B種 ◎C種 |
| ◎新規鋼製建具 | | ◎A種 ◎B種 |

| | | |
|--|---|--|
| 4 塗装 | [7.4.1~7.15.2] [表7.4.1~7.15.1] | |
| 塗装の種類 | | 塗装面 |
| ◎合成樹脂調合ペイント塗り | | ◎塗替え ◎新規 |
| (SOP) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎塗料の種類 ※1種 | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎クリヤラッカー塗り (CL) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎フタル酸樹脂エナメル塗り (FE) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎アクリル樹脂系水分散系塗料塗り (MAD) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎耐候性塗料塗り (DP) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎上塗り塗料の等級 | | ◎A-1種 ◎B-1種 ◎C-1種 |
| ◎1級 ◎2級 ◎3級 | | ◎A-2種 ◎B-2種 ◎C-2種 |
| ◎つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP-G) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎合成樹脂エマルジョンペイント塗り (EP) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り (EP-T) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎ウレタン樹脂ワニス塗り (UC) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎オイルステイン塗り (OS) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎木材保護塗料塗り (WP) | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎マステック塗料塗り | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎A種及びC種の凸面処理 | | ◎塗替え ◎新規 |
| ◎行う ・行わない | | |
| 1 既存部分の撤去等 | 撤去範囲 [8.19.2] [8.20.2] [8.21.2] [8.22.2] [8.23.3] | |
| ◎図示 | | |
| ◎既存鉄筋コンクリート内の鉄筋の切断 | | [8.19.2] [8.20.2] [8.21.2] [8.22.2] [8.23.3] |
| ◎図示 | | |
| ◎はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置 | | [8.19.2] [8.20.2] [8.21.2] [8.22.2] [8.23.3] |
| ◎露出部分は、錆止め塗料塗りを行う | | |
| 2 既存部分の処理 | ◎既存コンクリート面の目荒し [8.19.3] [8.20.3] [8.21.3] | |
| ◎適用範囲 | | |
| ◎既存コンクリートとの打継ぎ面 | | |
| ◎既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充填部の接合面 | | |
| ◎目荒しの範囲 | | |
| ◎柱、梁面 打継ぎ面又は接合面全面の15~30%程度 | | |
| ◎壁 打継ぎ面又は接合面全面の10~15%程度 | | |
| ◎打継ぎ面全て | | |
| ◎目荒しの程度 | | |
| ◎※平均深さ2~5mm (最大7mm) 程度の凹面を、全体にわたってつける。 | | |

| | | | | |
|------|----|--------------------------|------------------------------|---|
| 特記事項 | 検印 | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事 (第二期) | 令和6年 (2024年) 6月 | 建 |
| | | 特記仕様書 (3) | S-1/ | |
| | | 豊中市財務部施設課 | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | |

| | | | | | | |
|---|--------------------------|-------------------------|----------------|------------|---|------|
| ① 鉄筋 | 鉄筋の種類 [8.2.1] [表8.2.1] | | | | | |
| | 種類の記号 | | 呼び名 (mm) | | | |
| | ○S225A | ※D16以下 | ・ | | | |
| | ・S245 | ※D19以下 | ・ | | | |
| | 網目の形状、寸法等 [8.2.2] | | | | | |
| | 網目の形状、寸法 (縦×横) (mm) | | 鉄線の径又は呼び名 (mm) | | 規 格 | |
| | ※100×100 | | ※6.0 | | JIS 6 3551による | |
| | 継手方法等 [8.3.4] [8.4.2, 3] | | | | | |
| | 部 位 | | 継手方法 | | 呼び名 (mm) | |
| | 柱、梁の主筋 | | ※ガス圧接 ・機械式継手 | | | |
| その他の鉄筋 (床) | | ※重ね継手 ・ | | | | |
| 鉄筋の重ね継手の長さ [8.3.4] | | | | | | |
| ※鉄筋の重ね継手の長さは、建築基準法施行令第73条による。(図示) | | | | | | |
| 鉄筋の定着長さ [8.3.4] | | | | | | |
| ※鉄筋の定着長さは、建築基準法施行令第73条による。(図示) | | | | | | |
| 帯筋組立の形の種別 [8.3.4] [各部配筋 参考図 2.2] | | | | | | |
| ・W-I形 ・W-II形 ・W-III形 ・ | | | | | | |
| 鉄筋のかぶり厚さ [8.3.5] [表8.3.6] | | | | | | |
| 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは目地底から算定する。 ・耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。 | | | | | | |
| 施工箇所 | | 改修標仕表8.3.6の値に加える寸法 (mm) | | | | |
| ・柱、梁、壁及び庇等の外気に接する打放し面 | | ※10 ・ | | | | |
| 壁の配筋 [8.3.7] | | | | | | |
| ※壁配筋の重ね継手の長さは、建築基準法施行令第73条による。(図示) | | | | | | |
| 壁配筋の定着長さ ※図示 [8.3.7] | | | | | | |
| 耐震壁の開口部補強 ※図示 [8.3.7] [各部配筋 参考図 4.3~4.4] | | | | | | |
| ガス圧接 [8.3.8] | | | | | | |
| 圧接部の確認試験 ※超音波探傷試験 ・引張試験 | | | | | | |
| 既存構造体との取合い [8.19.6] [8.20.7] | | | | | | |
| 種 類 | | 材 料 | 材 質 | 径 | 本数ピッチ等 | 適用箇所 |
| ※スパイラル筋 | | ※鉄筋コンクリート用棒鋼 | ※SR225 | ※φ6 ・φ9 | スパイラルの径 (mm) (150) スパイラルのピッチ (mm) (50) | ※図示 |
| ・はしご筋 | | ※鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋) | ※S225A | ・D10 | 壁面内方向筋 () 壁面外方向筋 () | |

| | | |
|---|---|--|
| ② 穿孔前の埋込み配管等の探査 [8.11.2] | 探査範囲 [8.11.2] | |
| | ※あと施工アンカー施工部分すべて | |
| | ・図示 | |
| | 探査方法 [8.11.2] | |
| | ※鉄筋探査機 (金属探知機) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる | |
| ③ 施工確認試験 [8.11.5] | 試験の適用 [8.11.5] | |
| | ※実施する (試験方法 <input checked="" type="checkbox"/> 引張試験 ・) | |
| | 確認強度 ※図示 <input type="checkbox"/> D13-37.2(KN)、D19-79.4(KN)、D22-106.5(KN)、D25-137.5(KN) <input type="checkbox"/> 実施しない | |
| 4 シアコネクタ (現場打ちコンクリート壁の打増し部に用いるシアコネクタ) [8.2.4] [8.3.7] | 種類 ※金属拡張系あと施工アンカーの異形差筋アンカー [8.2.4] [8.3.7] | |
| | ・接着系あと施工アンカー | |
| | 径 (mm) ※D10 ・図示 既存壁への有効埋込み長さ (mm) ※7d (d: シアコネクタの径) ・図示 増打ち壁への有効定着長さ (mm) ・図示 間隔 (mm) ※500×500 ・図示 | |
| 5 型枠工事 [8.7.9] | シアコネクタとセパレーターの兼用 ※兼用してもよい ・兼用しない | |

| | | | | | |
|---|--|-----------|------------------------------|---|------|
| 8-4 コンクリート工事 | ① コンクリートの種類及び強度 [8.1.3] | | | | |
| | レディーミクストコンクリートの類別 ※I類 ・II類 | | | | |
| | 普通コンクリートの設計基準強度 [8.1.3] | | | | |
| | 設計基準強度 F_c (N/mm ²) | | 適用箇所 | | |
| | ・27 | | | | |
| | <input checked="" type="radio"/> 21+ (構造体強度補正值) | | 躯体全般 | | |
| | ・18 | | 犬走り、側溝 | | |
| | 軽量コンクリートの設計基準強度等 [8.1.3] [8.10.1] [表8.10.1] [8.10.3] | | | | |
| | 設計基準強度 F_c (N/mm ²) | | 気乾単位容積質量 (t/m ³) | 種 別 | 適用箇所 |
| | ・21 | | 1.85 | <input checked="" type="radio"/> 1種 ・2種 | 床 |
| ② コンクリートの品質 [8.1.4] | | | | | |
| スランブ | | 適用箇所 | | | |
| スランブ (cm) | | | | | |
| ※18 | | 躯体全般 | | | |
| ・15 | | 躯体以外 | | | |
| コンクリートの仕上り [8.1.4] [表8.1.2] | | | | | |
| 部材の位置及び断面寸法の許容差 [8.1.4] [表8.1.2] | | | | | |
| ※改修標仕表8.1.2による | | | | | |
| (適用箇所:) | | | | | |
| 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ [8.1.4] [表8.1.3] | | | | | |
| 種 別 | | 適用箇所 | | | |
| ・A種 | | | | | |
| ・B種 | | | | | |
| <input checked="" type="radio"/> C種 | | 床 | | | |
| 仕上りの平たんさ [8.1.4] [表8.1.4] | | | | | |
| ※改修標仕表8.1.4による | | | | | |
| (適用箇所:) | | | | | |
| ③ コンクリートの材料 [8.2.5] [表8.2.3] | | | | | |
| セメント | | 適用箇所 | | | |
| セメントの種類 | | | | | |
| 種 類 | | 躯体全般 | | | |
| ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 | | | | | |
| ・高炉セメントB種 <input checked="" type="checkbox"/> G | | | | | |
| ・フライアッシュセメントB種 <input checked="" type="checkbox"/> G | | | | | |
| 普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定のほか、水和熱が7日目で325J/g以下、かつ、28日目で402J/g以下のものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 | | | | | |
| 骨材 [8.2.5] | | | | | |
| 骨材の種類 | | | | | |
| アルカリシリカ反応性による区分 | | | | | |
| ※A | | | | | |
| ・B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0g/m ³ 以下) | | | | | |
| 混和材料 [8.2.5] [8.5.8] | | | | | |
| 種類 | | ※混和剤 ・混和材 | | | |
| 混和材料の使用量 ※改修標仕0.5.8(a)、(b)、(c)による | | | | | |

| | | | | |
|---|--|-------------------------|--|------|
| ④ コンクリートの調合管理強度 [8.5.5] [表8.5.1] | コンクリート強度の構造体強度補正值 (下表のとおりとする) [8.5.5] [表8.5.1] | | | |
| | 構造体強度補正值と期間 (普通ポルトランドセメント 混合セメントのA種の場合) | | | |
| | 構造体強度補正值 | 期間 (打設日) | | |
| | 3 | 2月23日~7月1日、9月13日~11月30日 | | |
| | 6 | 12月1日~2月22日 | | |
| | 暑中におけるコンクリートの扱い (8.7.8) | | | |
| | 構造体強度補正值 | | 日平均気温が25℃を超える期間 (打設日) | |
| | 6 | | 7月2日~9月12日 | |
| | 室内の工事における温度補正 ・行う ・行わない (6.14.1~3) | | | |
| | 設計基準強度等 [8.9.1] | | | |
| 種 類 | 設計基準強度 (N/mm ²) | スランブ (cm) | 粗骨材の最大寸法 (mm) | 適用箇所 |
| ※普通コンクリート | ※18 | ※15又は18 | ※25 | |
| ・軽量コンクリート | | | ・20 | |
| セメントの種類 [8.9.3] | | | | |
| ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 | | | | |
| ・高炉セメントB種 <input checked="" type="checkbox"/> G (捨コンクリート) | | | | |
| 設計基準強度 [8.9.1] | | | | |
| 設計基準強度 F_c (N/mm ²) | | 適用箇所 | | |
| ・27 ・30 ・33 ・36 | | | | |
| 混和材料 [8.9.3] | | | | |
| ※混和剤 | | | | |
| ※高性能AE減水剤標準形又は遅延形 | | | | |
| 種 類 | | | | |
| 施工箇所 | | 厚さ (mm) | 品質等 | |
| ・断熱材兼用型枠 | ・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系 | ※壁 (図示の範囲) | ※40以下 断熱抵抗 =厚さ/熱伝導率 =0.676以上 (m ² ・K/W) | |
| 製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの | | | | |
| 部位ごとのコンクリート打込み工法の指定 [8.19.8] [8.21.5] | | | | |
| 補強工法 | 打込み工法 | 部 位 | | |
| 現場打ち鉄筋コンクリート | ※工法指定なし ・流し込み工法 [8.19.8(a)(1)及び(b)] | ・すべての増設壁 ・図示 ・ | | |
| 壁の増設工事 | ・圧入工法 [8.19.8(a)(2)及び(c)] | ・すべての増設壁 ・図示 ・ | | |
| | | ・図示 ・ | | |
| 鉄筋コンクリート柱の溶接 | ※工法指定なし | ・すべての増設柱 ・図示 ・ | | |
| 金網巻き及び溶接閉鎖フープ巻き工法 | ・流し込み工法 [8.19.8(a)(1)及び(b)] ・圧入工法 [8.19.8(a)(2)及び(c)] | ・すべての増設柱 ・図示 ・ | | |
| | | ・図示 ・ | | |
| 鉄筋コンクリート柱の溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法での型枠等 [8.21.5] | | | | |
| 柱頭柱脚の隙間部間の型枠 | | | | |
| ※発泡プラスチック保温材等を埋め込む | | | | |
| 柱頭柱脚の隙間寸法 ※図示 ・ | | | | |
| 既存柱外周部あと打ちコンクリート又はモルタルの厚さ ※図示 | | | | |

| | | | | | |
|--------------------|--|------------------------------|--|--|--|
| ① あと施工アンカー [8.2.4] | 材料等 [8.2.4] | | | | |
| | ・金属系アンカー | | | | |
| | セット方式 | ※本体打込み式 | | | |
| | 引張耐力 | ※図示 | | | |
| | せん断耐力 | ※図示 | | | |
| | 接合筋の種類、径、長さ | ※図示 | | | |
| | 性能確認試験 | ・実施する (試験方法及び試験数 ※図示) ・実施しない | | | |
| | <input checked="" type="radio"/> 接着系アンカー | | | | |
| | アンカーの種類 | ※カプセル型 | | | |
| | 引張耐力 | ※図示 | | | |
| せん断耐力 | ※図示 | | | | |
| 接着剤の品質 | ※有機系 ・無機系 | | | | |
| アンカー筋の種類 | ※改修標仕表8.2.1の異形棒鋼 ・全ねじボルト | | | | |
| 性能確認試験 | ・実施する (試験方法及び試験数 ※図示) ・実施しない | | | | |

| | | | |
|---|--|-----------|--|
| セメントの種類 | | 適用箇所 | |
| 種 類 | | | |
| ※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 | | 躯体全般 | |
| ・高炉セメントB種 <input checked="" type="checkbox"/> G | | | |
| ・フライアッシュセメントB種 <input checked="" type="checkbox"/> G | | | |
| 普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定のほか、水和熱が7日目で325J/g以下、かつ、28日目で402J/g以下のものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 | | | |
| 骨材 [8.2.5] | | | |
| 骨材の種類 | | | |
| アルカリシリカ反応性による区分 | | | |
| ※A | | | |
| ・B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0g/m ³ 以下) | | | |
| 混和材料 [8.2.5] [8.5.8] | | | |
| 種類 | | ※混和剤 ・混和材 | |
| 混和材料の使用量 ※改修標仕0.5.8(a)、(b)、(c)による | | | |

| | | | | | |
|----------|-----|--|--------------------------|------------------------------|----|
| ④ 圧縮強度試験 | 検 印 | | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事 (第二期) | 令和6年 (2024年) 6月 | 建 |
| | | | 特記仕様書 (4) | S=1/ | |
| | | | 豊中市財務部施設課 | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | 06 |

| | | | | | |
|------|-----|--|--------------------------|------------------------------|----|
| 特記事項 | 検 印 | | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事 (第二期) | 令和6年 (2024年) 6月 | 建 |
| | | | 特記仕様書 (4) | S=1/ | |
| | | | 豊中市財務部施設課 | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | 06 |

1 アスベスト含有建材の処理工事

分析によるアスベスト含有の調査 [9.1.1]

・行う (採取箇所 ※図示) ○行わない

調査方法

| 材料名 | 調査方法 (1材料当たりの試料数) |
|-----|--------------------------------|
| | ※定性分析 (※3 ・) ・ 定量分析 (・ 3 ・) |
| | ※定性分析 (※3 ・) ・ 定量分析 (・ 3 ・) |
| | ※定性分析 (※3 ・) ・ 定量分析 (・ 3 ・) |

分析方法
 ※JIS A 1481 (建材製品中のアスベスト含有率測定方法) による
 ・
 分析結果については、監督職員に報告すること
 報告書の様式
 ・ (社) 日本作業環境測定協会発行「石綿分析結果報告書」
 ・

アスベスト粉じん濃度測定 [9.1.1]

○行う (測定箇所 ※石綿除去工事特記仕様書による (A-8))

測定時期、場所及び測定点数

| 適用 | 測定名称 | 測定時期 | 測定場所 | 測定点数 (各処理作業室ごと) | 備考 |
|----|------|---------------------|--------------------------|-----------------|------------|
| | 測定1 | 処理作業前 | 処理作業室内 | 各 () 点 | |
| | 測定2 | | 施工区画周辺 又は敷地境界 | 計2点 | |
| | 測定3 | 処理作業中 | 処理作業室内 | 各 () 点 | |
| | 測定4 | | セキュリティゾーン 入口 | 各1点 | 空気の流れを確認 |
| | 測定5 | | 負圧・除じん装置の排出口 (処理作業室外の場合) | 各1点 | 除じん装置の性能確認 |
| | 測定6 | | 施工区画周辺 又は敷地境界 | 4方向各1点 | |
| | 測定7 | 処理作業後 (隔離シート撤去前) | 処理作業室内 | 各 () 点 | |
| | 測定8 | | 施工区画周辺 又は敷地境界 | 4方向各1点 | |

(1) 施工区画とは、処理作業室、セキュリティゾーン、廃棄物置場、資材置場等を含む本処理工事に直接又は間接的に係る区画、施工区画周辺とは、その区画境界の前後1m以内の範囲をいう。

(2) 処理作業室の面積が50㎡ 以下の場合は2点、300㎡ までは3点とする。300㎡ を超えるような場合は、監督職員と協議する。

測定方法
 JIS K 3850-1 (空气中の繊維状粒子測定方法-第1部：光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法) による。

種類
 ※位相差顕微鏡法
 試料採取フィルターを二分割し、一方を位相差顕微鏡法用として使用し、他方はその結果が高い場合 (10本/L以上) に行う位相差・分散顕微鏡法用に保存しておく。
 ・位相差、分散顕微鏡法

測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。

| | 測定3 (作業環境) | 測定1, 4, 5, 7 (室内環境) | 測定2, 6, 8 (大気環境) |
|--------------------|------------|---------------------|------------------|
| メンブレンフィルターの直径 (mm) | 25 | 25 | 47 |
| 試料の吸引流量 (L/分) | 1 | 5 | 10 |
| 試料の吸引時間 (分) | 5 | 120 | 240 |
| 計数視野数 | 50 | 50 | 50 |
| 定量限界 (本/L) | 50 | 0.5 | 0.3 |

測定記録項目
 (1) 除去するアスベスト含有建材の種類
 (2) 測定点の位置の図面
 (3) 測定日時、天候、気流
 (4) 試料採取条件
 (5) 標本作製方法
 (6) 使用顕微鏡の種類 (開口数を含む)
 (7) 計数条件 (HSEテストスライドの読取りグループ番号を含む)
 (8) 繊維数濃度 (位相差顕微鏡法の場合は総繊維数濃度、位相差・分散顕微鏡法の場合はアスベスト繊維数濃度)

(9) 定量限界
 (10) その他

アスベスト含有吹付け材の除去 (レベル1) ・行う ※特記仕様書追記事項による [9.1.3]

除去対象範囲 ※図示

除去工法 ※改修仕様9.1.3(b)(i)~(iv)による
 除去したアスベスト含有吹付け材等の処理
 ※密封処理 (二重袋梱包)
 ・セメント固化
 除去対象範囲 ※図示
 作業場の隔離 ・行う ・行わない [9.1.4]

アスベスト含有保温材等の除去 (レベル2) ・行う
 除去対象範囲 ※図示 [9.1.4]

アスベスト含有成形板の除去 (レベル3) ○行う [9.1.5]

メーカーリスト

| 形式 | メーカー | 型番 |
|---|---------------|----------------------------|
| 点検口 | ナカ工業株式会社 | 天井用 HH-GS454 床用 NHBBS-600 |
| | 株式会社ダイケン | 天井用 CFZ345 床用 FSMFD60H |
| | 株式会社シンドウ工業 | SSH454 |
| メラミン化粧板 | アイカ工業株式会社 | FKM60002GN |
| | 株式会社弘和 | 不燃メラミン化粧板 |
| 床シート | 日本デコラックス株式会社 | 不燃メラミン化粧板 3t |
| | 田島ルーフィング株式会社 | 廊下 PタイルMuji トイレ床 消臭ケムカゲン |
| | 東リ株式会社 | 廊下 マフコV トイレ床 消臭17LW |
| | ロンシール工業株式会社 | トイレ床 サシカム |
| アルミ | 三協立山株式会社 | 三協アルミ社 製作品 |
| | 不二サッシ株式会社 | 製作品 |
| | YKK AP株式会社 | 製作品 |
| 点字タイル | 田島ルーフィング株式会社 | JS-27 |
| | ロンシール工業株式会社 | 20STA-111 |
| | ナカ工業株式会社 | NPD-G-Y |
| ビクトサイン | 杉田エース株式会社 | |
| | 株式会社フジタ | |
| | 二業工業株式会社 | |
| 三方枠 | 三和シャッター工業株式会社 | 製作品 |
| | 文化シャッター株式会社 | 製作品 |
| | | |
| トイレブース | コマンー株式会社 | CB-ARSE トイレブース |
| | 三和シャッター工業株式会社 | トイレブースTA40 |
| | 小松ウオール工業株式会社 | TB-TP |
| 汚垂石 | TOTO株式会社 | ハイドロセラ・フロアPU (薄型) |
| | 株式会社LIXIL | キラミックスステップ テーバー仕様 |
| 可動手摺 | TOTO株式会社 | |
| | 株式会社LIXIL | 樹脂被覆タイプ KF-481EH70J/WA |
| 洗面台・洗面器 | TOTO株式会社 | MKWD注2週 (奥行450mm) ボウル一体タイプ |
| | 株式会社LIXIL | MB-450HD5W |
| 甲板 | TOTO株式会社 | MLX1 C 2310 A NX11 2W |
| | 株式会社LIXIL | MB-32AS |
| 姿見 | 二業工業株式会社 | 製作品 |
| | TOTO株式会社 | 製作品 |
| | 株式会社LIXIL | 製作品 |
| フック | TOTO株式会社 | YKH22 |
| | 株式会社LIXIL | KF-86 |
| ウォールキャビネット | 株式会社LIXIL | セクショナルキッチン GS-GKシリーズ |
| | | |
| ベビーチェア | コンビ株式会社 | BK-F62 |
| | | |
| 流し台 | 株式会社LIXIL | セクショナルキッチン GS-GKシリーズ |
| | | |
| おむつ交換台 | コンビウイズ株式会社 | OK21W |
| | TOTO株式会社 | KYA25S |
| ユニバーサルシート | コンビウイズ株式会社 | AC-US-01 |
| | | |
| チェンジングボード | コンビウイズ株式会社 | AC-CB-01 |
| | | |
| ※ 記名するメーカー指定は全て同等以上とする。 記名メーカー以外の物品を使用する場合は事前に指定品と同等以上を証明する資料を添付した同等品願書を監督職員に提出し承認を得ること。 | | |

| | | | | |
|------|----|--------------------------|------------------------------|---|
| 特記事項 | 検印 | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事 (第二期) | 令和6年 (2024年) 6月 | 建 |
| | | 特記仕様書 (5) | S=1/ | |
| | | 豊中市財務部施設課 | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | |

| | | | |
|--|---|--|---|
| <p>工事概要</p> <p>工事名称</p> <p>工事場所</p> <p>工事種目</p> <p>○本工事は4週8休対象工事とする。作業時間等は「工事現場管理」参照</p> <p>○本工事は4週8休対象工事ではありません。作業時間等は「工事現場管理」参照</p> | <p>○工事現場内を含む、敷地内は全面禁煙とする。</p> <p>また、敷地外においても近隣住民の迷惑になる場所での喫煙は避けること。</p> <p>○本工事は「情報共有システム」を活用する工事である。適用にあたっては、国土交通省大臣官房官庁営繕部が定める「工事施工中における受発注者間の情報共有システム機能要件2019年版営繕工事編」を満たす情報共有システムとし、監督職員と協議の上決定し使用すること。</p> <p>提出書類は原則、情報共有システムを使用し、電子提出すること。</p> <p>○石綿含有建材の有無に関わらず、建築物（建築設備を含む）等の解体・改修工事を行う前に石綿含有建材の調査を実施し、調査結果を発注者及び大阪府に報告すること。調査結果の報告は、大阪府に対しては原則として石綿事前調査結果報告システムを使用し、発注者に対しては監督職員の指示によるものとする。</p> <p>なお、当調査は、一般建築物石綿含有建材調査者又は特定建築物石綿含有建材調査者が行うものとする。</p> | <p>工事現場管理</p> <p>○作業時間は原則として午前8時から午後6時までとし、土曜、日曜、祝日は休業とすること。</p> <p>○学校における工事の場合は、テスト期間中は軽作業のみとする。やむをえず作業を行う場合は作業時間及び作業内容を施設管理者に説明した上で、承諾を得ること。</p> <p>○施設利用者及び近隣住民の安全対策については、監督職員、施設管理者と十分協議を行い終始安全に注意し施工すること。</p> <p>○近隣への工事説明等は受注者にて行うこと。（求められた場合の説明会を含む）</p> <p>○工事に伴う近隣の安全対策、折衝及び損害補償はすべて受注者が行うこと。</p> <p>○工事車両における事故防止の安全対策は受注者の責務とする。</p> <p>○工事中における道路清掃を励行し、特に進入路付近の清掃は随時行うこと。</p> <p>○工事車両駐車場は図示する範囲とし、周辺道路は全て駐車禁止とする。また駐車場の不足については、受注者の負担にて近隣で確保すること。</p> <p>○仮設電力・用水・電話は工事専用とし、引込等の費用は本工事に含む。</p> <p>○解体及びはつり工事の実施時期については、監督職員、施設管理者と協議の上、決定すること。</p> <p>○解体及びはつり工事等の騒音、粉塵及び振動を伴う作業については、周辺環境への影響の少ない工法及び作業を選定すること。また換気装置、送風機用ダクト、集塵機等により周辺への粉塵飛散の抑制を行うこと。</p> <p>○石綿含有建材の除去工事の実施時期については、監督職員、施設管理者と協議の上、決定すること。</p> <p>○施工図・施工計画書の作成に際し、関連工事及び別途工事（設備工事等）を含めた総合図を作成し、監督職員の承諾を得ること。</p> | <p>化学物質の濃度測定</p> <p>○室内化学物質等の測定は文部科学省が定める基準以下であることを確認し、気温、湿度（室内・室外）、天候、風の状況、日射進入状況、測定月日、時間、窓の開閉状況、機械換気量、工事完成時から測定までの日数、測定温度、測定方法及び使用した機器を明示した報告書を提出すること。</p> <p>測定時期 施工前 工事完了後</p> <p>測定する化学物質の種類</p> <p>ホルムアルデヒド・・・100ug/m3 0.08ppm以下</p> <p>トルエン・・・260ug/m3 0.07ppm以下</p> <p>キシレン・・・200ug/m3 0.05ppm以下</p> <p>エチルベンゼン・・・3800ug/m3 0.88ppm以下</p> <p>ステレン・・・220ug/m3 0.05ppm以下</p> <p>パラジクロロベンゼン・・・240ug/m3 0.04ppm以下</p> <p>測定方法 アクティブ型採取機器により行う。</p> <p>測定対象室及び測定箇所数 19箇所</p> <p>対象室 B1階：男子1、女子1、事務所1、シャワー室1</p> <p>1階：男子1、女子1、バリアフリー1（各階同様とする）</p> <p>○各種揮発性有機化合物濃度が上記測定基準値以下となることを確認するまでは引渡し不可とする。その場合には発生原因を究明し汚染物質の発生を低くする等、適切な措置を講じる。さらに十分な換気を励行し再度測定を行う。測定値が基準値以下となることを確認後に引渡しすること。</p> <p>○測定機関は受注者以外の専門測定機関等に委託すること。測定機関等については都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関又はこれと同等以上の技術を有する者とする。</p> |
| <p>1. 一般共通事項</p> <p>一般事項</p> <p>○その他の事項や書式については、「豊中市建築工事提出書類作成要領・受注者検査要領」「建築材料等評価名簿（最新版）（一般社団法人公共建築協会）」による。</p> <p>○着工に先立ち施工計画書を提出し、監督職員の承諾を得ること。また、工事完了時には施工報告書を提出すること。</p> <p>○豊中市環境の保全等の推進に関する条例に定める特定建設作業を行う場合は、速やかに、同届出書を本市環境部環境指導課へ提出し、その写しを監督職員へ提出すること。</p> <p>○建設業退職金共済制度掛金収納書届及び証紙の受払簿を監督職員へ提出すること。また、本工事が同制度加入済みであることの標記を、現場内で監督職員の指示する場所に掲示すること。</p> <p>○本工により、付近の敷地及び既存建物その他に損傷を与えた場合には、受注者の負担にて全て原状回復を行うこと。</p> <p>○工事に伴い障害物が発見されたときは、速やかに監督職員に報告し、協議の上、施工すること。</p> <p>○工期内の施工に伴う災害及び公害の防止は、建築基準法、労働安全衛生法、大気汚染防止法、建設工事公衆災害防止対策要綱、その他関係法令に従い適切な処置を行うとともに、特に①～④の事項を守ること。</p> <p>①第三者に災害を及ぼしてはならない。</p> <p>②公害の防止に努めること。</p> <p>③善良な管理職員の注意をもってしても、災害または、公害の発生の恐れがある場合の処置については速やかに監督職員と協議すること。</p> <p>④受注者は工事期間中、火災保険を含む建設工事保険に加入すること。また、損害を補填できる第三者損害賠償責任保険に加入すること。</p> | <p>関連工事</p> <p>○総括安全衛生管理者とし、労働者の危険又は健康障害を防止するための措置等を行うこと。</p> <p>○別契約の関連工事について、関連工事の受注者に対し、次のものについて便宜を供与する。これらに要する費用の負担は、全て受注者の負担とする。その他については工事区分表による。</p> <p>①関連工事を行う場所への出入り及び安全管理</p> <p>②仮囲い・足場等の仮設物の利用</p> <p>③障害となる仮設物の取除き、貫通孔等の設置、ボルト・インサート等の取付け</p> <p>④材料の取込に必要な搬入口・通路等の設置・確保</p> <p>設計変更</p> <p>○設計変更に関わる工事は監督職員の指示によって行う。</p> <p>○前項の場合において請負代金額の変更を行う場合は、その都度施工に着手する前に請負代金額の増減を明示した増減内訳書を提出し監督職員の確認を受けること。</p> <p>○増減内訳書における工事単価は工事請負契約時の工事単価とする。</p> <p>数量公開</p> <p>○本工事における市より公開する参考数量書は参考資料のため、設計変更及び差引増減の対象とならないものとする。また、参考数量書の内容は質疑の対象とならないものとする。なお、本図面と参考数量書との間で相違があった場合は図面を優先とする。</p> <p>○受注者は請負契約締結後10日以内に本工事に係る差引増減対応が可能な工事費内訳書を施設課へ提出すること。</p> | <p>材料・工法</p> <p>○本工事に使用するすべての材料は工事施工前に、監督職員の指示する資材のSDS（安全データシート）等を提出すること。</p> <p>○図面中、同等品以上（同等以上）と注記された製品及び工法において、同等品以上のもを使用する場合は事前に監督職員の承諾を得ること。そのことにより建築基準法第18条第2項の規定による計画通知の変更は原則として認めない。やむをえず計画通知の変更等を行う場合は全て受注者の負担にてその手続きを行うこと。なお、それに伴う本工事の工期変更及び金額変更は一切認めない。</p> <p>○国等による環境物品等の調達推進等に関する法律（グリーン購入法）に定めるところにより、環境負荷を低減できる材料を選択するよう努めること。</p> <p>○屋内で使用する材料の選定にあたっては、揮発性有害物質の放散による健康への影響に配慮すること。</p> <p>○可能な限りリサイクル材を使用すること。</p> <p>施工</p> <p>○図中寸法はすべて参考寸法とし、施工に先立ち現場実測等を行い設計図書と現場との相違がないか確認すること。また、相違があった場合は速やかに監督職員に報告すること。</p> <p>○隠ぺい部分の工事は事前に監督職員の確認を受けた後、次の工程に進むこと。なお確認なきものは、すべて無効とし手直し等の費用はすべて受注者の負担とする。</p> <p>○監督職員による立会検査時は、工事受注者による検査を行い、その記録を提出（写真含）しなければならない。記録がない場合は監督職員による検査は行わず、それによる工事の遅延は工事受注者の責とみなす。</p> <p>○工事車両及び工事関係車両は、当工事である旨の表示を行うこと。なお、その表示は、第三者が識別できるよう工夫すること。</p> <p>○本工事のすべての作業員は名札または腕章等で、本工事の作業員であることを明示すること。</p> | <p>工事検査及び技術検査</p> <p>○竣工引渡し時、施工上の欠陥あるいは使用材料の不良により生じた破損は、直ちに無償手直しをする旨の保証書を受注者・施工業者・製造メーカー連名にて提出すること。各保証期間は以下による。</p> <p>塗装工事：2年 外壁塗装工事：2年</p> <p>防水工事：10年 床シート類：2年</p> <p>シーリング工事：5年 塗膜防水工事：5年</p> <p>アスファルトシングル工事：10年 EV：2年</p> <p>2. 仮設工事</p> <p>○敷地内に現場事務所等を新たに設置する場合、基礎を建築基準法第20条に適合させること。</p> <p>○敷地内に現場事務所等を新たに設置する場合、豊中市火災予防条例第45条の規定により、届出書を所轄消防署へ提出すること。</p> <p>○労働安全衛生規則を遵守し、仮設足場を設置すること。また、労働安全衛生法に基づく届出を行うこと。</p> <p>○交通誘導員の配置は、特記仕様書のほか仮設計図書による。</p> <p>○仮間仕切りの扉等工事範囲の出入口は、施錠を行う交通誘導員を配置するなどして、無断の工事関係者以外の立ち入りを不可とすること。</p> <p>○工事に伴う移動可能な備品等の移動は原則図面によるが、監督職員・施設管理者と十分協議の上その指示に従い、移動等を行うこと。また、図示なき場所の移動についても、協議の上軽微なものは本工事に含む。</p> <p>○本工事の施工にあたり支障となる樹木、フェンス、屋外通路の屋根等の枝払い、移植、仮撤去・復旧等はすべて本工事に含む。</p> <p>○工事使用範囲については購入土（マサ土）にて整地・転圧を行うこと。</p> <p>○外部足場はW900以上（昇降部：W1200以上）とする。</p> |
| <p>○撤去に伴うガラ等の発生材の処理については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」「建設リサイクル法」等による、建設廃棄物処理委託契約書の写しを提出すること。また、再生資源利用計画書及び実施書に数量を入力し、入力データ等を監督職員に提出すること。</p> <p>○発生した廃棄物は、現場より直接処分場へ持ち込むこととする。</p> <p>○受注者より提出された施工図及び、施工計画書の著作にかかわる当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。</p> <p>○疑義が生じた場合は監督職員と協議の上決定すること。</p> <p>○運送業については、貨物自動車運送業法を遵守すること。また、一般貨物自動車運送事業を営もうとするものは、国土交通大臣の許可を受けた者とする。</p> <p>○特記なき事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（〇〇年版）」（以下「標仕」という。）、「建築工事監理指針（〇〇年版）」及び「公共建築改修工事標準仕様書（〇〇年版）」（以下「改仕」という。）、「建築改修工事監理指針（〇〇年版）」による。</p> <p>○本工事は、建築基準法、労働安全衛生法、大気汚染防止法、建設工事公衆災害防止対策要綱、その他関連法令を遵守すること。</p> <p>○工事中手、施工、完成にあたり、「標仕」1.1.3 による関係官公署その他の関係機関への必要な届出手続き等「監理指針」表1.1.1を遅滞なく行う。なお、これに要する費用は本工事に含む。</p> | <p>工事関係図書</p> <p>○質疑は必ず文書にて行い、電話等では行わないこと。やむを得ず電話等にて行う場合は、質疑内容等を記載した質疑応答書を作成の上、すみやかに監督職員の承諾を得ること。</p> <p>○工事写真は、国土交通省「営繕工事写真撮影要領」に準拠するものとする。</p> <p>○設計図書は、主要な部位・事項についての設計意図を示すものであり、必ずしも工事の完了に必要なすべての情報を網羅するものではない。</p> <p>○受注者は、設計図書に示された情報をもとに、製造者等の特定を経て、工程や下地等を考慮のうえ、責任を持って生産設計、製作、施工を行い、工事の適切な進捗と完成に必要なすべてのものを供給する。</p> <p>○設計図書における疑義は、工事請負契約締結前に質疑回答書をもって解決済みとみなす。工事請負契約締結後に標仕[1.1.8(1)]の疑義等が発見された場合、原則として請負代金額の増額及び工期延長は行わない。</p> <p>完成写真</p> <p>○以下のものを監督職員に提出する。</p> <p>竣工写真と現況写真を対比したアルバムデータ</p> <p>現況写真（工事場所及びその附近の必要と思われる箇所について完成後の写真アングルを考慮して着工前に撮影）</p> <p>竣工写真 竣工後、外観や室内各室を撮影</p> <p>完成図</p> <p>○工事完成時に以下のものを監督職員に提出する。</p> <p>完成図のデータ</p> <p>完成図を印刷し、背張り製本したもの A4判2冊程度（製本サイズと作成部数は監督職員に確認すること。）</p> | <p>3. 土工事</p> <p>○残土処分は市が指定する処分場にて処分すること。なお、分析にかかる費用は本工事に含む。</p> | |

2024年4月作成

| | | | | |
|--|-----------|--|---------------------------------------|-------------------|
| | <p>検印</p> | <p>豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事（第二期）</p> <p>令和6年(2024年)6月</p> <p>改修特記仕様書（追記事項1）</p> <p>豊中市財務部施設課</p> | <p>1級建築士登録 第256765号 西本 裕昭</p> | <p>建</p> <p>9</p> |
|--|-----------|--|---------------------------------------|-------------------|

| | |
|---|---|
| <p>6. コンクリート工事</p> <p>○本工事に使用する生コンクリートは土木学会示方書・建築学会仕様書に明記された「全国統一品質管理監査制度」の監査に合格した○適マーク取得工場から納入すること。</p> <p>○生コンクリート品質低下防止対策指針（豊中市）を遵守すること。</p> <p>○本工事に用いるコンクリートは標仕[6.2.1]により、JIS A 5308 に適合するレディミックスコンクリートとする。</p> <p>○建築基準法第37条により、基礎、主要構造部その他安全上、防災上又は衛生上重要である政令で定める部分に使用するコンクリートの骨材は標仕[6.3.1]による。</p> <p>○コンクリート骨材の種類及び品質は、JIS A 5308の附属書A（規定）による。</p> <p>○附属書A（規定）のA.4 砕石及び細砂はJIS A 5005 の規定のほかa)及びb)による。</p> <p>○附属書A（規定）のA. 8 砂利及び砂a)b)c)による。</p> <p>○本工事に用いるコンクリートは、標仕[6.2.4] を満足させるため必要に応じて高性能AE減水剤を適切に使用すること。</p> <p>○材料の試験は工事施工前に以下の材料を（一財）日本建築総合試験所にて行い、結果報告書を監督職員に提出すること。</p> <p>①1週・4週圧縮強度試験（コンクリート試験体）</p> <p>○コンクリート圧縮強度の供試体については荷下ろしより採取すること。(150m3毎)</p> <p>○生コンクリート打設時においてスランブ、空気量、塩化物量の各試験を行うこと。</p> <p>○コンクリート打設時に残ったコンクリートはノッチタンクを設置し、上澄みと沈殿物（汚泥）に分類し、上澄みは敷地内側溝に排出し汚泥は乾燥後産廃として適切に場外処分を行うこと。</p> <p>○コンクリート圧縮強度試験については、材齢7日目、28日目（調合管理強度用の管理試験用及び構造体コンクリートの圧縮強度推定用）を（一財）日本建築総合試験所で行うこと。</p> <p>○大阪府「コンクリート工事に関する取扱要領」による別表の試験を行うこと。</p> | <p>13. 屋根及びとい工事</p> <p>○既設防水等撤去部分は、撤去後ただちに養生等を行うこと。施工不良による漏水が発生した場合は、すべて受注者の責任で補償すること。</p> <p>○屋根及びといは取合い部を含め漏水がないこと。また屋根材は所定の耐風圧性を有し、有害な振動等がないこと。</p> <p>○建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法とし、施工要領書を提出すること。</p> <p>○ の勾配屋根形式は長尺金属板縦葺きとし、種類はガルバリウム鋼板(t=0.4以上)とする。 「標仕13.2.2」</p> <p>○ の勾配屋根工法は「標仕13.2.3」により、元且ビューティー工業「ダンツキルーフ182」、三晃金属「立廻SX-40」又は同等品以上とする。「標仕13.2.3」</p> <p>○既存の下地材料については「改仕3.2.2」とし、処理については「改仕3.2.6(3)(ウ)」とする。</p> <p>○ はケイミュー（株）コロニアルガラス又は同等品以上とし、納まりはメーカー仕様とする。</p> <p>○水切り金物はメーカーの仕様による。</p> <p>○軒樋はデンカ側M型150または、同等品以上を使用すること。取付金具間隔は600mm以内とする。</p> <p>○堅樋は鞘クボタケミックスタフカラーパイプまたは、同等品以上を使用すること。取付金具間隔は1200mm以内とする。</p> <p>○飾り枘を設置する場合は、堅樋（カラーVP）に対応する塩ビ製角蓋付きとする。</p> <p>○ドレンは自在ドレンとし、ストレーナーの形状については監督職員の承諾を受けらること。</p> |
|---|---|

コンクリートの品質を管理するための試験

別表

| 試験名 | 該当材料 | (い) | | | | 試験回数 | 試験の採取場所 | その他 | 試験の実施者 | (ろ) | (は) | (に) | 備考 | | | | | | | |
|---------------|-------------|---------------------------|--|-----------------|--------------------------|----------------------|---------|------------------------------------|--------------------------|--|--------------------------|------------------------------------|---|--------------------------|-------|----------|--|----------------------------|-----------------------------|--------------|
| | | 試験項目 | 試験方法 | 試験材齢 | 試験回数 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 骨材試験 | 普通骨材 | 1. 絶乾密度・吸水率・粒度 | JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 1102 | — | 1回/月 | レディミックスコンクリート工場の骨材置場 | — | 登録試験所 試験結果の工事施工者又は工事施工管理実務者への報告 | 登録試験所 又は 工事施工管理実務者 | 1) 試験項目1.2.8.9.10の試験の試料の採取及び登録試験所への搬入 | 工事施工者 又は 工事施工管理実務者 | 1) 試料採取に立ち会い 登録試験所が試料を採取する場合を除く | | | | | | | | |
| | | 2. アルカリシリカ反応性 *1 | JIS A 1145*2 JIS A 1146*2 | — | | | | | | | | | | 指示による | | | | | | |
| フレッシュコンクリート試験 | フレッシュコンクリート | 3. スランブ | JIS A 1101 | — | 1回/日 かつ 1回/150m3以内 | 荷卸し地点 | — | 工事施工者 又は 工事施工管理実務者 | 登録試験所が試料を採取する場合を除く | 2) 試験項目3.4.5.6.7の試験の実施 | 工事施工者 又は 工事施工管理実務者 | 2) 試料を登録試験へ搬入する場合 試料の確認 | 試験項目8 現場封かん養生による場合は、試験を材齢91日以前に実施してもよい | | | | | | | |
| | | 4. 空気量 | JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128 | — | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 5. 単位容積質量 (軽量コンクリートのみ) | JIS A 1116 | — | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 6. 温度 | JIS A 1156 | — | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 7. 塩化物量 | JASS 5T-502 | — | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 8. 構造体コンクリートの強度推定のための圧縮強度 | JIS A 1108 | 7日 及び 28日 | | | | | | | | | | 1回/日 かつ 1回/150m3以内 | 荷卸し地点 | 現場水中養生*3 | 登録試験所 *4 試験結果の工事施工者又は工事施工管理実務者への報告 | 3) 試験結果の工事監理者又は工事監理実務者への報告 | 3) 試験項目3.4.5.6.7の試験の実施に立ち会い | 4) 試験結果の整理保管 |
| | | 9. コア供試体の圧縮強度 *1 | JIS A 1107 | — | | | | | | | | | | 指示による | | | | | | |
| 10. 塩化物量 *1 | JIS A 1154 | — | 指示による | | | | | | | | | | | | | | | | | |

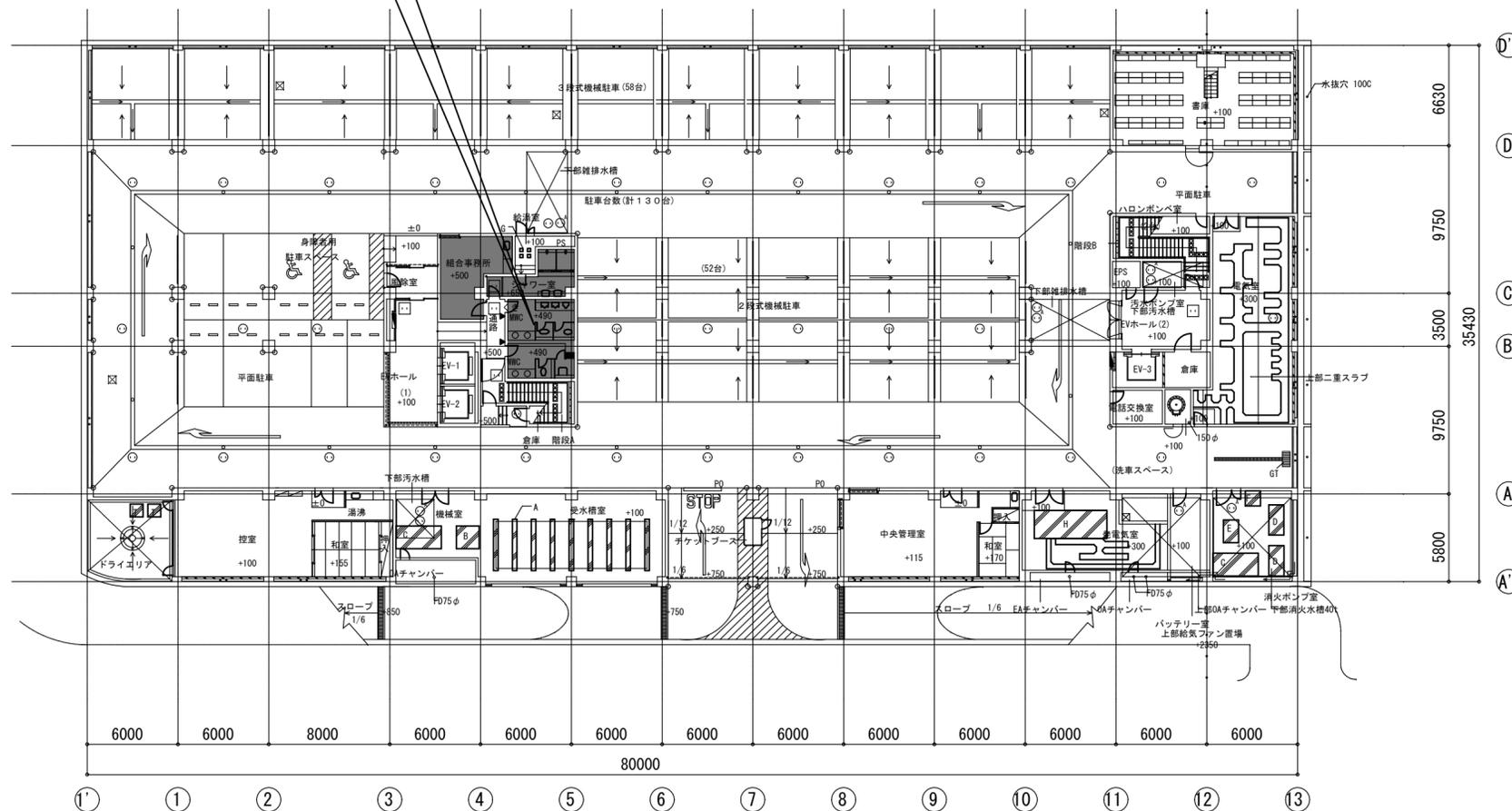
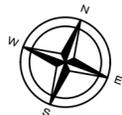
*1：建築主事又は確認検査員の指示がある場合に行う。 *2：工事に支障をきたすと判断される場合には、監督職員確認の上、早期判定試験によって試験を行ってもよい。
 *3：場所打ちコンクリート杭などの地中のコンクリート構造物に用いるコンクリートの養生方法は、標準水中養生としてもよい。
 *4：試験結果が法令で定められた所要の性能を満たさない可能性がある場合には、その情報を速やかに工事監理者若しくは工事監理実務者並びに工事施工者若しくは工事施工管理実務者へ報告すること。

| | | | |
|-----|-------------------------|------------------------------|-------------|
| 検 印 | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事（第二期） | 令和6年(2024年)6月 | 建 10 |
| | 特記仕様書（2） | | |
| | 豊中市財務部施設課 | 1級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | |

| 階 | 室名 | | 床 | | 巾木 | | 壁 | | 天井 | | 廻縁 | | 備考 | |
|-------|-----------------|-----------------|------------------------------|-------------------------------|--------------------------|-------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|-------|------|---------------------------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 地下1階 | 男子トイレ | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | LGS下地 | 撤去 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | |
| | | 仕上 | 磁器質タイル 50角 | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×100 | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×100 | 一部撤去 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 撤去 | 撤去 | | | |
| | 改修後 | 下地 | 下地調整 樹脂モルタルt=6 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | LGS下地 | 新設 | 塩ビ廻縁 | 新設 | | |
| | 仕上 | 複層ビニル床シートt=2.0貼 | 新設 | 床シート巻上H=100 | 新設 | メラミン化粧板 t=3.0貼 | 新設 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | |
| | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | LGS下地 | 撤去 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | | |
| | 仕上 | 磁器質タイル 50角 | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×100 | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×100 | 一部撤去 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 女子トイレ | 改修後 | 下地 | 既設タイルの上 下地調整 樹脂モルタルt=6 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | LGS下地 | 新設 | 塩ビ廻縁 | 新設 | | |
| | 仕上 | 複層ビニル床シートt=2.0貼 | 新設 | 床シート巻上H=100 | 新設 | メラミン化粧板 t=3.0貼 | 新設 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | |
| 通路 | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | 耐水PB T9+T12 | 一部撤去 | 耐水PB T9+T12 | 一部撤去 | LGS下地 | 一部撤去 | 塩ビ廻縁 | 一部撤去 | 上部ピクトサイン 存置 平付け型 200×200 2ヶ所 | |
| | 仕上 | ゴムタイル t=3.0 | 一部撤去 | ビニル巾木 H=100 | 一部撤去 | ビニルクロス AP | 一部撤去 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 一部撤去 | 一部撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 改修後 | 下地 | モルタル下地 | 一部新設 | 下地処理 | 一部新設 | モルタルコテ押エ | 一部新設 | LGS下地 | 一部新設 | 塩ビ廻縁 | 一部新設 | 上部ピクトサイン 洗い 平付け型 200×200 2ヶ所 | | |
| 仕上 | ゴムタイル t=3.0 | 一部新設 | ビニル巾木 H=100 | 一部新設 | ビニルクロス | 一部新設 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 一部新設 | 一部新設 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 1階 | 多機能トイレ | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | LGS下地 | 撤去 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | |
| | | 仕上 | 磁器質タイル 50角 | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×200 | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×200 | 一部撤去 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 撤去 | 撤去 | | | |
| | 改修後 | 下地 | 下地調整 樹脂モルタルt=6 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | LGS下地 | 新設 | 塩ビ廻縁 | 新設 | | |
| | 仕上 | 複層ビニル床シートt=2.0貼 | 新設 | 床シート巻上H=100 | 新設 | メラミン化粧板 t=3.0貼 | 新設 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | |
| | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | LGS下地 | 撤去 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | | |
| | 仕上 | 磁器質タイル 50角 | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×200 (東トイレ 100×100) | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×200 (東トイレ 100×100) | 一部撤去 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 女子トイレ | 改修後 | 下地 | 下地調整 樹脂モルタルt=6 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | LGS下地 | 新設 | 塩ビ廻縁 | 新設 | | |
| | 仕上 | 複層ビニル床シートt=2.0貼 | 新設 | 床シート巻上H=100 | 新設 | メラミン化粧板 t=3.0貼 | 新設 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | |
| 女子洗面 | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | 耐水PB T9+T12 | 一部撤去 | 耐水PB T9+T12 | 一部撤去 | LGS下地 | 撤去 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | | |
| | 仕上 | ゴムシート t=3.0 | 撤去 | 半磁器タイル 100×200 (東トイレ 100×100) | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×200 (東トイレ 100×100) | 一部撤去 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 改修後 | 下地 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | LGS下地 | 新設 | 塩ビ廻縁 | 新設 | | | |
| 仕上 | 複層ビニル床シートt=2.0貼 | 新設 | 床シート巻上H=100 | 新設 | メラミン化粧板 t=3.0貼 | 新設 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | | |
| 男子トイレ | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | LGS下地 | 撤去 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | | |
| | 仕上 | 磁器質タイル 50角 | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×200 (東トイレ 100×100) | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×200 (東トイレ 100×100) | 一部撤去 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 改修後 | 下地 | 下地調整 樹脂モルタルt=6 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | LGS下地 | 新設 | 塩ビ廻縁 | 新設 | | | |
| 仕上 | 複層ビニル床シートt=2.0貼 | 新設 | 床シート巻上H=100 | 新設 | メラミン化粧板 t=3.0貼 | 新設 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | | |
| 男子洗面 | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 一部撤去 | LGS下地 | 撤去 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | | |
| | 仕上 | ゴムシート t=3.0 | 撤去 | 半磁器タイル 100×200 | 一部撤去 | 半磁器タイル 100×200 (東トイレ 100×100) | 一部撤去 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 改修後 | 下地 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | LGS下地 | 新設 | 塩ビ廻縁 | 新設 | | | |
| 仕上 | 複層ビニル床シートt=2.0貼 | 新設 | 床シート巻上H=100 | 新設 | メラミン化粧板 t=3.0貼 | 新設 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | | |
| 給湯室 | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | | 一部撤去 | | 存置 | LGS下地 | 撤去 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | | |
| | 仕上 | ゴムシート t=3.0 | 撤去 | ゴムシート巻上げ t=3.0 (アルミ見切縁存置) | 撤去 | 半磁器タイル 100×100 及びガラスブロック | 存置 | ケイカル板t=6.0 底目張り VP | 撤去 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 改修後 | 下地 | カチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | モルタル金鏝押えのうえカチオン系樹脂モルタル薄塗 | 新設 | モルタル下地 | 既設 | LGS下地 | 新設 | 塩ビ廻縁 | 新設 | | | |
| 仕上 | 複層ビニル床シートt=2.0貼 | 新設 | 複層ビニル床シートt=2.0巻上げ (アルミ見切縁洗い) | 新設 | 半磁器タイル 100×100 及びガラスブロック | 洗い | 化粧ケイカル板t=6.0 底目張り | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | | |
| SK室 | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 存置 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 存置 | 耐水PB t12, ケイカル板 t5 | 存置 | LGS下地 | 撤去 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | | |
| | 仕上 | 磁器質タイル 50角 | 存置 | 半磁器タイル 100×100 | 存置 | 半磁器タイル 100×100 | 存置 | ケイカル板t=6.0 底目張り VP | 撤去 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 改修後 | 下地 | モルタル下地 | | ケイカル板 t5 | | ケイカル板 t5 | | LGS下地 | 新設 | 塩ビ廻縁 | 新設 | | | |
| 仕上 | 磁器質タイル 50角 | 洗い | 半磁器タイル 100×100 | 洗い | 半磁器タイル 100×100 | 洗い | ケイカル板t=6.0 底目張り EP塗 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | | |
| 通路 | 改修前 | 下地 | モルタル下地 | 一部撤去 | 耐水PB T9+T12 | 一部撤去 | 耐水PB T9+T12 | 一部撤去 | LGS下地 | 存置 | 塩ビ廻縁 | 撤去 | 上部ピクトサイン存置 突出型 150×300 2ヶ所 平付け型 200×200 3ヶ所 | |
| | 仕上 | ゴムタイル t=3.0 | 撤去 | ビニル巾木 H=100 | 撤去 | クロスベンキ | 撤去 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | 撤去 | | |
| 改修後 | 下地 | モルタル下地 | 一部新設 | 耐水PB T9+T12 | 一部新設 | 耐水PB T9+T12 | 一部新設 | LGS下地 | 既設のまま | 塩ビ廻縁 | 新設 | 上部ピクトサイン 仮撤去、復旧 | | |
| 仕上 | ゴムタイル t=3.0 | 新設 | ビニル巾木 H=100 | 新設 | ビニルクロス | 新設 | 石膏ボードt=9.5捨貼岩綿吸音板t=12.0貼 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | 新設 | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--|--|--|--|--|--|--|--|----|-------------------------|--|------------------------------|--|---|-----------|
| 特記事項 | | | | | | | | | 検印 | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事（第二期） | | 令和6年（2024年）6月 | | 建 | |
| | | | | | | | | | | 仕上表 | | | | | |
| | | | | | | | | | | 豊中市財務部施設課 | | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | | | No. 12 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |

BFトイレ他



| 駐車台数 | |
|---------------------|------|
| 2段式機械駐車 | 40台 |
| 3段式機械駐車 | 58台 |
| 平面駐車 (洗車スペースも含む) | 13台 |
| 計 | 111台 |

今回施工箇所

凡例 (機械基礎等)

| 機械基礎 | 個数 | F | L | R | マンホール |
|---------------------|----|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------------------------|
| A 3400x 300xH600x 9 | | F 1000x1000xH150x 1 | L 4000x 350xH600x20 | R 800x 200xH200x 4 | ○ タラップ付 600φ ダクタイル6T型 防水防臭型 防錆塗料 6個 |
| B 1500x1500xH300x 1 | | G 200x 200xH150x 4 | M 1300x 300xH150x 4 | S 4400x 300xH600x 4 | ○ 600φ ダクタイル6T型 防水防臭型 防錆塗料 39個 |
| C 3000x1500xH150x 1 | | H 1800x5000xH400x 1 | N 1300x 300xH600x 2 | T 850x 850xH100x 2 | □ 化粧2重マンホール 750 点検口 ステンレス製 表面床仕上と同じ |
| D 1000x2000xH300x 2 | | I 4000x 800xH100x12 | O 2500x1000xH150x 2 | U 350x 800xH100x 1 | □ 600φ マンホール 防水防臭錆鉄マンホール コールタール焼付 5個 |
| E 1000x1500xH150x 1 | | J 2300x 800xH100x 4 | P 1000x 600xH150x 2 | | □ 上部吊会所 |
| | | K 4450x1050xH100x 5 | Q 1200x 500xH150x 2 | | |

▲ ◎ 表示板の位置を示す

| 凡例 | |
|-------------|--------------|
| コンクリート造 | 押出成形セメント板 |
| ALCパネル t125 | ●RD ルーフドレイン |
| 軽量鉄骨下地壁 | ○FD フロアドレイン |
| コンクリートブロック造 | □LD コーナードレイン |
| PCaパネル | 横引樋 |
| | 伸縮目地 |
| | ● 縦樋 |
| | □ 雨水会所 |
| | □ 吊会所 |

特記事項

| | | | |
|----|--------------------------|------------------------------|--------|
| 検印 | 豊中市役所第二庁舎トイレ内装改修工事 (第二期) | 令和6年 (2024年) 6月 | A |
| | 既設 BF平面図 | S=1/300 (A2) | |
| | 豊中市財務部施設課 | 一級建築士登録 第256765号 西本 裕昭 | No. 13 |

